



<研究主題>

児童生徒が自分で考え、もっと学びたくなる授業づくり

～学びの過程、内面の育ちに着目した授業研究～

【**中学部**】

10月に全校授業研究会を実施しました。中学部2年生 生活単元学習の授業を通して、学部の研究テーマに基づく協議題を設定し、ワークショップ型の授業研究会を行いました。

<協議題>

自分から気付いて考え、行動する姿を引き出すための支援はどうあれば良いか

★単元名★ 「デリバリー9 ～^{まご}真心さんに届けよう～」

【単元概要】季節に合わせた制作物を3回に渡って近隣の高齢者施設「真心」に届けることを目的とする。

★授業説明★

- ・「誰かのために」という目的意識をもつことや、みんなで共通の目的に向かうことを通して、意欲や自信につながってきている生徒が多い。今回「家族のために」から「地域のために」という発展を図るが、生徒の発言から近隣の高齢者施設の名前が挙がった。
- ・即時評価と振り返りの際の記録を兼ねて、教師が生徒の頑張りや良い点を付箋に書き留めるようにした。また、授業の中盤で「中間評価」を行った。活動を止めてしまうが、目標や達成度を確認する意図である。



★協議から★

- ・「お年寄りが喜ぶもの」については、事前の情報収集や本単元に至るまでに交流を重ねるなどの準備段階が必要ではないか。
- ・生徒からの発信は、大人に対するものが多い。生徒同士で課題解決する設定を検討したい。
- ・「中間評価」を中心に、肯定的な評価が生徒の意欲にもつながっている。目標への意識を持続する効果もみられる。ただし、課題や改善の必要がある点についても触れていってもよいのではないか。
- ・ある生徒が独自にアレンジした制作をした。ただ、お年寄りに喜んでもらえるかは疑問。その姿、思考をどう解釈し評価していくのかを、指導者間で摺り合わせる必要がある。

<指導助言(要点抜粋)> 秋田県総合教育センター 指導主事 加藤 しおり 氏

- ・評価を丁寧に追っている。めあての設定～活動～評価の流れを固定していること、めあてを掲示し、良かった点を教師が付箋に書き留めることなどの手立てにより、めあて～評価がつながっていて整理されていた。
- ・地域活動を取り扱う場合、社会的な役割を担う意欲や、将来この地域での存在価値を高めることに結びつくことから、キャリア教育の視点も大切である。学部としても地域活動の中でどういう力を伸ばすのか、どのように地域と関わっていくのかを共有してほしい。
- ・前単元では保護者を対象としたデリバリー、本単元は高齢者施設、次回は小学部生とある。小学部生に対して、どのように関心を引くか、分かりやすく伝えるか、などの点について考えたり工夫したりする内容を含んだ活動となる。3年生へつなげる意識を高めるためにも、どのような活動が効果的か検討してほしい。
- ・制作物を3回に渡って届けるが、1回ごとに「育成を目指す資質・能力」や全体・個人の目標は変化してくるはずである。その洗い出しや見直しを経て、手立てを考えることが「内面の見取り」につながるので、積み上げていく過程も指導案などに反映させてほしい。